

平成30年度の主要な施策（要旨）



※平成30年度の主要な施策の全文は
西ノ島町ホームページ「ウェブ町長室」
に掲載しています。

新庁舎整備関係について

昨年6月に新庁舎整備検討委員会を立ち上げ、整備に向けた基本計画の策定を進めてまいりました。

検討委員会では、新庁舎整備にあつての基本方針や施設規模、建設候補地などについて検討がなされ、本年の1月29日に答申を受けたところでございます。今後は、この答申を尊重しながら建設に向けて取り組んでまいります。

隠岐ユネスコ世界ジオパークについて

昨年7月に、審査が行われた隠岐ユネスコ世界ジオパークの再認定が決定いたしました。

ジオサイトの説明板や誘導板の設置が計画的に行われたことや、近年増加している外国人に対応するためのガイド組織の充実などが評価されたものであります。

今回の再認定を新たな出発点として、島根県や隠岐4町村の更なる連携強化と、景観や生態系の保全・保護に努めてまいります。



ジオサイト説明版

防災関係について

これまで、砂防ダムや急傾斜地対策など、多くのハード整備を進める一方、防災マップや津波ハザードマップを活用し、警戒区域の周知や意識啓発にも取り組んでまいりました。

しかしながら、災害や不測の事態に迅速かつ的確に対応するためには、平素より、必要な環境整備や地域による互助体制の構築が重要であります。

本年度は、災害発生時よりもより、平素から地域の方々が一緒になって防災活動に取り組む「自主防災組織」の推進に取り組んでまいります。

また、独居高齢者が増加していく中、日頃の安否確認や災害時の避難支援が重要となりますので、見守り体制の構築や災害時における支援策などの検討を進めてまいります。

現在、緊急時の情報伝達手段として、Jアラートと連動した防災行政無線により情報提供を行っております。

この防災行政無線は、整備から20年経過し、老朽化が進んでいる上に、戸別受信機も既に生産がされていないなど、新設備に更新せざるを得ない状況であります。

こうしたことから、平成31年度に現在の設備をデジタル式の防災行政無線に移行することとし、本年度は、その整備に向けた設計を行う予定としております。

デジタル化することで、データ通信や双方向通信も可能となりますので、防災拠点となる新庁舎の整備と併せ、災害時に有効な伝達手段の充実を図ってまいります。

産業振興について

(1) 水産関係について

昨年のまき網漁業につきましては、約18億円の漁獲高で前年比3.5%増と、依然好調に推移しております。

水産業の中核を担うまき網漁業は、地域経済にとりましても大変重要ですので、今後、益々の充実を期待するところであります。

漁業就業者の確保対策につきましては、一昨年から支援対象を拡大し取り組んでおります。

こうした中、昨年は、まき網漁業の新規就業者2名に加え、養殖漁業や採介藻漁業を目指す新規就業者1名が誕生し、現在、地元漁業者の下で研修を受けております。

今後も新たな就業者の拡大に繋がるよう、必要な支援と情報発信に取り組んでまいります。

離島漁業再生支援交付金を活用した取組につきましては、引き続きアワビやキジハタ等の種苗放流など、資源確保に努めるとともに、都市部における地元産品の販路開拓や就業確保に対する取組などにも支援を行ってまいります。

地域資源を有効活用し、漁業所得の向上と雇用創出を目指した海藻加工施設につきましては、今年度より稼働いたしますので、安定的な施設運営が行えるよう、漁業関係者と連携しながら進めてまいります。

また、近年、注目されている海藻成分を活用した、健康食品向け原料の加工施設整備を進めるほか、海藻分布調査、陸上養殖の実証実験などにも取り組むこと

とし、将来的な資源活用拡大や保護にも繋げてまいります。

(2) 農林関係について

昨年は、本町から県の代表として、栄えある全国和牛能力共進会への出場や高値で推移している市場取引価格など、畜産関係者にとって明るい話題が多かった1年となりました。

一方で、畜産農家の減少、高齢化に対する対策は大きな課題であることから、作業負担の軽減や新たな担い手の確保に重点をおき、農家や関係機関と連携しながら取組を進めてまいります。

また、放牧場や牧場の整備を計画的に行うとともに、新たに整備した畜産振興施設を有効活用し、新規就農を促す環境づくりや生産技術の向上に繋がる施策に取り組んでまいります。

林業関係につきましては、島根県の「ふるさとの森再生事業」と「分収林事業」により、健全な森の育成を進めてまいります。

また、広がりを見せる竹林地についても分収林事業を活用しながら景観向上に努めてまいります。

(3) 観光関連について

昨年の年間入込客数は、外国人観光客の増加はあったものの全体としては、約7%の減少となりました。

こうした中、昨年から観光協会では「花とハイキング」、「星の観察」、「野鳥の観察」など、体験型観光の構築に取り組んでおります。

今年度は、先行して「花とハイキング」

を商品化し、進めていく予定となっておりますので、町として必要な支援を行ってまいります。

また、近年、定着してきたクルーズ客船の寄港につきましては、年々、増加傾向にあるなど、これまでの取組が評価されてきたものと考えております。

本年度は、誘致を行ってきた外国船籍（アメリカ船籍、ドイツ船籍）の2隻を含む8回の寄港が予定されておりますので、受け入れに向け、連携しながら準備を進めてまいります。



昨年寄港した「飛鳥Ⅱ」

観光振興を進める上で、情報発信は重要なポイントであります。

本町の情報発信ツールの1つである「隠岐・西ノ島いいね」が、この度「フォトジェニックサイト・アワード2017」の全国ベスト100に選定されました。

これは、観光庁ホームページに掲載されている全国の市町村及び観光協会が運営する1,700以上のウェブサイトのなかから「行ってみたい」と思わせるようなサイトが選考されるものです。

こうした評価を追い風に、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力などを最大限に活用しながら、より充実した情報の発信を行い、誘客に繋げてまいります。



「西ノ島いいね」ホームページ

(4) イベント・交流関係について

本年度のイベント関係につきましては「ツーデーウォーク」や「帝祭」、「西ノ島ハーフマラソン」などが順次予定されております。

イベントを通じ、西ノ島の魅力を感じていただくとともに、交流人口の拡大に繋げてまいります。

地域間交流につきましては、今年度も江府町との経済交流や堺市で開催される交流イベントなどの参加を予定しております。

こうした交流を継続することで、両地域との関係をより深め、本町のPRと更なる交流の発展に繋がるよう取り組んでまいります。

また、今年度、新たな取組として、A級グルメで取り上げられている邑南町と連携し、「食」をツールに首都圏へ情報発信を行うこととしております。

多くの実績を挙げている同町の取組を

参考に、食材や加工品などの販路開拓、観光誘致等に繋がるよう進めてまいります。

定住関係について

島根県の統計調査によりますと、転入から転出を差し引いた人口の社会動態が、西ノ島町は、これまでのマイナスから平成29年にプラスに転じております。県内11町村の中でも増加に転じた町村は、4町村であり、飯南町に次ぐ12人の増加でありました。

また、合計特殊出生率も近年は増加傾向にあり、平成28年には2.35と県内トップの出生率となりました。

こうした結果を受け、これまで進めてきた定住施策を継続していくことが、住み易い環境を整えることに繋がっていくものと考えております。

今後も、様々な支援制度の拡充や情報発信に力を入れるとともに、定住促進の課題となる住居の確保に努めてまいります。

今年度の住宅整備につきましては、旧美田診療所跡地に新築するほか、既存住宅の改善や空き家改修などを予定しております。

更には、新たな試みとして、低コストで短期間での建設が可能なコンテナハウスを試験的に整備することとしております。

また、今年度は、増加する空き家等の対策を総合的に推進していくために「空き家等対策計画」を策定することとしております。

適切な管理が行われないまま放置され